

建築デザイン発表会

2019年度日本建築学会大会（北陸）第12回建築デザイン発表梗概募集

建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けることにより、設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としている。ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいう。

詳細は<http://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2019/>

募集対象

- 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学、高等専門学校および専門学校の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造、環境工学・設備、材料等の技術分野の設計、構工法・設計システム等にかかわる設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

応募部門

(1) 一般部門

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議で発表セッション分けを行う。また、各セッションには、原則として運営委員が参加する。

(2) テーマ部門

2019年度のテーマ部門のテーマ・招待講師等は右記のとおりである。

発表期日・会場

期日：2019年9月3日（火）～6日（金）

会場：金沢工業大学 扇が丘キャンパス（石川県野々市市扇が丘）

応募期間

2019年2月15日（金）～4月5日（金）17時（厳守）

梗概集

採択された建築デザイン発表梗概は、DVD版大会梗概集に収録し頒布する。

講評等

テーマ部門では講評者が2題程度の建築デザインを顕彰する。大会終了後に講評者の講評を「本会ホームページ」に掲載する。

懇親会

大会第2日目（9月4日（水））に発表者（共同発表者含む）による懇親会を予定。

建築デザイン発表と学術講演との複数の講演発表について

日本建築学会の正会員（個人）、準会員、名誉会員は、希望により、建築デザイン発表会、学術講演会それぞれにおいて1題ずつ講演発表を行うことが可能です。詳細は『建築雑誌』1月号または建築学会ホームページをご覧ください。

a. 心地よい公共の居場所

藤江 和子

（藤江和子アトリエ代表）

個人的な生活の時間、社会と関わる活動の時間、連続と途切れることのない空間と時間を通して、人々が生き生きとした生活の実感が得られる居場所としての開かれた公共空間のありようを大切にされなければならないと思います。

b. 素材を見極める

竹原 義二

（無有建築工房代表）

建築に対して性能のみを追求することで、経年の美という古びる良さが置き去りにされているように感じます。時間の中で生き続けていく建築とは何か。建築をかたちづくる素材をテーマに、建築と今一度向かい合うための議論をしたいと思えます。

c. セルフビルドのデザイン

渡辺 真理

（法政大学教授）

「セルフビルド」とは設計者自らが施工する行為全般を意味します。設計者は必ずしも施工の専門家ではないし、施工には地域のボランティアが参加する場合があります。設計者が学生の場合もありますし、グループでデザインし施工する場合も多々あります。セルフビルドでなければならないデザイン（には「作り方」も考える必要があります）を考えてみましょう。

d. 人を中心とした環境・空間デザイン

近本 智行

（立命館大学教授）

建築や空間そのものの価値から、その中で過ごす人の行動を誘発し、意識を高めるデザイン、そして健康増進や生産性向上につながる環境づくりが視点が変化しつつあります。そんな時代の新たな価値創造につながる提案を希望します。

e. 木を使った建築

腰原 幹雄

（東京大学生産技術研究所教授）

1000年以上培ってきた日本の伝統木造技術、でも木の使い方はそれだけではないはず。現代の生活スタイル、生産システムの中で、従来の「木造」建築だけでなくさまざまな木を使った建築の提案を求めます。

f. ここから始まる歴史性・地域性

倉方 俊輔

（大阪市立大学准教授）

現在、歴史性や地域性としてみなされているものも意外に、個人的、短期的、新規的な成立だったります。過去に寄りかかるとでなく、今に安住するでもなく、継承されるべき歴史性や地域性をつくる建築デザインを求めます。